

大雨による災害対策の第一歩は情報収集から

災害の怖さや防災への意識が薄れないよう、事前にあらゆる備えをしておくことが大切です。自分の命を自分で守るために、防災・減災の知識を増やしましょう。また、災害発生時にはテレビ、防災ラジオ、パソコン、携帯電話などで最新情報を入手するようにしましょう。  
※防災ラジオは有効な情報収集媒体の1つです。貸与申請がまだの人は手続きをお願いします。

防災ラジオ

配信情報…避難情報、緊急地震速報、特別警報など

貸与条件…市に住民票がある世帯に、1台無償貸与

申請方法…防災復興推進課、各地域局、各市民センターへ申請書を提出してください。  
※申請の受け付けは令和2年度で終了する予定です。



おかやま防災ポータル

配信情報

気象情報…1時間雨量の情報や動画による6時間後までの降水予想、警報や注意報の発令状況など

観測情報…高梁川や成羽川の水位状況、ダムの放流状況、市内の雨量観測点の状況など

おかやま防災ポータル URL…<http://www.bousai.pref.okayama.jp/bousai/>

高梁市メール配信サービス

気象情報や市が提供する避難指示などの防災情報を入手できます。このシステムを利用するには登録が必要です。

登録用メールアドレス…[e-takahashi@xpressmail.jp](mailto:e-takahashi@xpressmail.jp)

河川監視カメラ

市内に設置している河川監視カメラで撮影した河川の状況を市のホームページで公開しています。また、大雨洪水警報の発令時には吉備ケーブルテレビでも放送します。

市ホームページ URL…<http://city.takahashi.lg.jp/site/t-bousai-webcamera.html>

避難情報について

気象情報や市が発表する避難情報などの防災情報を入手し、どこに避難するかを判断しましょう。必ずしも指定避難場所へこだわる必要はありません。「災害に遭わない」「安全な場所に居る」と思い込まず、避難情報などに注意して速やかに行動しましょう。日頃から身近で安全な避難場所について、家庭や地域で話し合ひましょう。

警戒レベルによる避難情報と避難行動

警戒レベル	避難情報	避難行動(とるべき行動)
5	災害発生情報	命を守る最善の行動をとりましょう。
4	避難勧告 避難指示(緊急)	速やかに避難をしましょう。 移動が危険な場合は近くや自宅内の安全な場所に避難しましょう。
3	避難準備 高齢者など避難開始	避難の準備をしましょう。高齢者などの避難に時間を要する人とその支援者は避難をしましょう。
2	大雨注意報 洪水注意報	ハザードマップなどにより、自らの避難行動を確認しましょう。
1	早期注意情報 (警報級の可能性)	大雨警報などが発表される可能性があります。 災害への心構えを高めましょう。

おかやま防災ポータル

高梁市メール配信サービス

市ホームページ

「大雨」による災害に備えて

平成30年7月豪雨は、河川の氾濫などによる浸水被害や山腹崩壊、土砂災害などが重なり、未曾有の大災害となりました。大雨による災害の被害を最小限に抑えるためには、日頃の備えや避難行動の確認が大切です。あらためて防災について考えましょう。

☎防災復興推進課 ☎(21)0246

自分の命は自分で守ろう！

大雨は事前に予測ができるため、早めの避難行動が可能です。しかし、浸水が始まると水深が浅くても足をすくわれ、側溝などに転落する恐れがあり、特に夜間は注意が必要です。屋外への避難が危険なときは、自宅の2階以上の部屋や山の近くでは、山と反対側の部屋へ移動するなど、臨機応変に行動しましょう。

自主防災組織

大規模災害の直後は交通網や通信網などのライフラインが混乱し、行政による救出や支援が行き届かない場合があります。そのときは地域による支え合いが大切です。平成30年7月豪雨災害時にも、地域による1人暮らし世帯などへの水の配布や、要支援者への安否確認などにより救われた人も多く、地域の自主防災活動が大きな役割を果たしました。大規模災害を乗り越えるためにも、各地域で自主防災組織を構成し、「自分たちのまちは自分で守る」という心構えで、日頃から災害に備えましょう。

避難所での感染予防について

現在、国において新型コロナウイルス感染症に関する緊急事態宣言が発令されています。避難所においても感染が危惧されており、安全に避難ができるよう対策を検討しています。今後、広報たかはし6月号への掲載などで周知しますので、ご確認ください。

内容	補助金額
防災訓練	基本額 10,000円 + 組織加入世帯数 × 100円 (限度額 50,000円)
防災士養成	防災士の認証の取得費用(交通費等は除く) ただし、自主防災組織以外の市内団体に所属する者が取得する場合は、取得費用の1/2を限度とする。
研修・啓発	限度額 20,000円
防災マップ作成	限度額 50,000円
防災資機材整備	基本額 30,000円 + 組織加入世帯数 × 200円 (限度額 100,000円) ※2回目以後は上記の半額とし、50,000円を限度とする。

自主防災組織  
活動促進補助金

市内の自主防災組織の活動について補助金を交付します。  
※今年度から内容を改正しています。

避難時に必要なもの

大雨などの避難時に必要な荷物を事前に用意しておきましょう。  
飲料水 1人1日3リットルを目安に3日分  
非常食 ごはん(アルファ米など備蓄用ご飯)、ビスケット、板チョコ、乾パン、などを3日分  
衣類 防寒着、下着、雨具  
衛生用品 簡易トイレ、タオル、生理用品、オムツ、マスクなど  
医薬品 救急セット、体温計、常備薬、服用中の薬など  
日用品 懐中電灯、電池、マッチ・ライター、ろうそく、軍手、はさみ、トイレットペーパー、眼鏡・コンタクトレンズ、携帯ラジオ、携帯電話の充電器など  
貴重品 現金、預貯金通帳、印鑑、携帯電話、免許証など  
便利なもの ビニール袋・ゴミ袋、ラップ、新聞紙、ウェットティッシュなど

